令和７年度入学　総合型選抜
レクチャー①・レクチャーレポート・レクチャー②・ふりかえりレポート　講評

レクチャー①

【概要】

テーマ：日本の食料事情と消費者意識

私たちの日常的な活動と環境との関わりを、日本の食料事情という観点から扱った。食料自給率の変化、食料輸入が抱える課題や地球環境への影響、それらを踏まえた日本の消費者意識について、主に数値的なデータを示しつつ具体的に説明した。その上で、日常の食生活を支える輸入食材の恩恵を意識する一方で、食料輸入が抱えるさまざまな状況を理解し、消費活動に結びつけていくことの必要性について、思考を促した。

レクチャーレポート

レクチャー①で解説した図表や考え方を正しく理解できているかを問うとともに、複数の図表から適切な情報を抽出・整理し、論理的に説明できる力、及び自分の考えを根拠に基づき論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

問１

【出題のねらい】

日本の食料自給率と食料消費量を素材に、適切な図表を選び、正しく読み取る力、及び読み取ったことを論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) は、【図表１】及び【図表２】から、日本の総合食料自給率と品目別自給率の変化を指定された２つの年代について比較し、読み取ることができる変化を説明する問題である。概ね不足のない解答が多かったが、【図表２】の説明について、読み取った変化率が全体のなかでどのような位置にあるのかに言及できていない、すなわち説明が不十分な解答もみられた。

(2) は、【図表２】及び【図表３】から、1965 年からの約 50 年で輸入に支えられる傾向が強まった品目を予測し、説明する問題である。品目の特定には、消費量の増加率と自給率の推移に触れる必要があるが、データの詳細まで触れるに至っていない解答が多かった。

(3) は、【図表５】に示された「懸念」を、その背景とともに説明する問題である。レクチャーで説明された背景との関連付けが必要であり、概ね不足のない解答が多かったが、【図表５】の項目を列挙するのみの解答も散見された。

問２

【出題のねらい】

フードマイレージという考え方を素材に、計算する力、及び導き出した数値や定義をもとに説明する力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) 韓国について、指定された数値を求める計算問題である。計算には資料冊子中の数値を用いる必要があったが、問題冊子中の数値のみで計算している解答が散見されたほか、計算間違いも多くみられた。

(2) 日本と韓国について、１人あたりで見た場合の穀物輸入量とフードマイレージの数値的関係の相違を説明する問題である。前者と後者の大小関係の変化を述べる必要があるが、差が小さい、ほぼ同じなど、関係を説明しきれていない解答がみられた。

(3) (2)で述べた数値的関係に変化が現れる要因を述べる問題である。レクチャーで説明したフードマイレージの定義から要因は見いだせるが、計算によって要因を見いだそうと苦闘した様子がうかがえる解答も散見された。

問３

【出題のねらい】

地球環境への関心と食品選択との関わりを示す消費者アンケートを素材に、適切な図表から的確に情報を整理・説明する力、及びその情報を自分事として置き換え、考察する応用力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) レクチャー中で説明した消費者の食品選択と、環境負荷の削減・低減との対応関係を記号によって示す問題である。概ね適切な対応関係が示されていたが、記号使用の制限を読み違えている解答もみられた。

(2)【図表 11】と【図表 12】から、環境に配慮した食品を選択する際の理由と国産のものを選択する際の理由を読み取り、その理由に消費者の意識のズレがあることを説明する問題である。図表の読み取りに終始し、消費者の意識には言及していない、すなわち説明に不足がある解答がみられた。

(3) レクチャー全体を踏まえ、消費者として必要な意識と、その意識が結びつく自分自身の消費活動について、自分の考えを述べる問題である。自分の経験や意識は述べられていたが、消費活動については消費者一般として述べられている解答が多かった。また、これまでの自身の消費活動のみを述べるに留まる、すなわち意識と活動の結びつきとして述べられていない解答も多くみられた。

レクチャー②

【概要】

テーマ： 日本の食を旬と産地から考える

私たちの日常的な活動と環境との関わりを、日本の食生活における旬と産地という観点で扱った。日本の食の特質と旬を説明した上で身近な旬の食材の例を確認し、蕎麦を例に食材の生育に適した気候や土壌と人間の営みとの関わり、昆布だしを例に地形と水質と生み出される味との関係について説明をした。その上で、日常の食生活における、その土地が生み出す味への意識について思考を促した。

ふりかえりレポート

レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して、食と自然環境との関わりについて正しく説明できるか、明確な根拠を示しながら述べることができるかを問うとともに、グループワークでの他者の意見を参考にして自身の考え・主張を客観的に表現する力と、２つのレクチャーとグループワークを通して、自らの考えがどう変化したか、あるいは深まったかを論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

問１

【出題のねらい】

レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して、自然環境と食材及び食文化との関わりについて説明する力を問う問題である。

【講評】

(1) 食べ物の季節性について、その季節性と関わりなく食材を入手できる理由を説明する問題である。触れるべき要因はレクチャーで説明していたが、挙示に不足する解答が多くみられ、なかには全く挙げ得ていない解答もみられた。

(2) 蕎麦を例に、作物の性質と気候や土壌との関わりが、食文化の形成に影響していることを説明する問題である。作物の性質と気候・土壌の関わりで説明を終えており、食文化の形成まで言及できていない解答、あるいは作物の性質と食文化の形成との関係に言及していても、気候・土壌との関わりへの言及がどちらか一方に留まり、説明が不十分な解答が多くみられた。

(3) 昆布だしを例に、自然地形とそれに伴う水質の違いが、味の相違を生み出す場合があることを説明する問題である。概ね良好な解答状況であったが、昆布に含まれる成分に触れたのみで、その成分と水との反応に言及していない、不十分な説明の解答も散見された。

問２

【出題のねらい】

グループワークの振り返りを通じ、自分の意見と他者の意見との区別や、他者の意見を参考にした考えの深まりを、根拠を明示して客観的に評価できる力をみることをねらいとした。

【講評】

(1) グループワーク前、すなわち自己ワーク時における「自分の選択」と「その理由」を説明する問題である。【図表 15】の作成を通じてまとめていた自己の考えの振り返りであり、概ね良好な解答状況であったが、“どの要素を重視し、その選択に至ったのか”について要素と選択とが対応していない、すなわち根拠と結論とが対応していない解答も散見された。

(2) グループワークを経た後の「自分の選択」と「その理由」を、グループワークでの他者の意見との関係を明示しながら説明する問題である。自分の考えの維持や変化、及びその理由は述べられているが、それがグループワークでの議論をどのように踏まえた結果であるのか、すなわち自分の考えと他者の考えの関係に言及していない解答が多く見られた。

(3) (1)及び(2)で述べた「自分の選択」において“重視したこと”が、自己ワーク、グループワークを経てどのように変化したか、深まったかを論じる問題である。選択、すなわち結論にいたる経過、すなわち“重視したこと”の変化や理解の仕方の深まりを自己分析し、論理的に説明できるかを問うものであった。変化や深まりを具体的に述べることはできていたが、その根拠について具体性に乏しい解答が目立った。

問３

【出題のねらい】

レクチャー①②、グループワークを全体として捉え直し、「日本で食を営んでいく」一個人としての必要な意識と、その意識から導かれる行動を思考し、これまでの自分の考え方と比較しながら説明する問題である。自分の考えの変化や深まりを論理的に説明できる力をみることをねらいとした。

【講評】

これまでの経験にもとづく自分の考えについて、具体的に述べることの出来ている解答は多かった。しかし、変化や深まりについて具体的に述べられていない解答や、その根拠について触れられていない解答も多くみられた。また、自分自身の意識や行動ではなく、一般論としての意識や行動を述べている解答も散見された。